

社会文化システムコース

科目名	データ利用 I		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>社会科学の手法に関する統計的知識を習得する。 具体的な例の下に標本（データ）の様々な見方を学ぶ。前半は各データにおける特徴を見ることを目的とする。そして後半は組合せデータにおける特徴を見ることを目的とする。特に後半は社会的なデータを分析する上に必要に知識となる。 電卓で計算することにより各データをどのように加工するのか体感することも目的となる。 参考文献などは一回目の授業にてリストを配布する予定である。</p>				
授業の準備について	1年後期・2年前期にも関わるのでしっかり復習すること。				
授業内容					
1	データを見る（平均）				
2	データを見る（分散）				
3	分散をグラフで見る（度数分布表）				
4	データをグラフで見る（色々なグラフ）				
5	2つのデータの関係（散布図と相関係数）				
6	相関係数について				
7	考察1（平均・分散）				
8	考察2（相関係数）				
9	一次関数について				
10	回帰直線について				
11	データの予測（回帰直線の利用）				
12	データの信頼性				
13	仮説検定				
14	演習問題				
15	まとめ				
教科書	特に指定しない				
評価方法	試験70%以上、課題等30%以下				
特記事項	ルートの計算できる電卓を用意すること。				

科目名	データ利用 II		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>Excel を使ってデータをまとめる。 「データ利用 I」において様々な統計データを取扱った。この授業ではそれらについて Ms-Excel を使いグラフ化したり、数値を求めたりする方法を学ぶ。また出来上がったデータを下に分析力を養うため、ディスカッション形式で議論を行なう。</p>				
授業の準備について	データ利用 I の復習とこの授業の復習をしっかりとすること。				
授業内容					
1	Excel の基本操作 1				
2	Excel の基本操作 2				
3	色々な表の作成（度数分布表など）				
4	グラフの作成と特徴				
5	代表値の求め方				
6	データのばらつきの度合いの求め方				
7	練習問題 1				
8	組合せデータのグラフ（散布図）の作成				
9	相関係数の求め方など				
10	回帰直線の求め方など				
11	予測値の計算				
12	偏相関係数の求め方 1				
13	偏相関係数の求め方 2				
14	偏回帰係数と重回帰直線				
15	まとめ				
教科書	特に指定しない				
評価方法	試験 70%以上、課題等 30%以下				
特記事項	特になし				

科目名	統計処理法		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>データ利用 I・II を踏まえて分析法を学ぶ。 統計学の復習から始め特に回帰分析について詳しく講義する。 また色々な事柄をデータにまとめ、相関のある・なしについて議論する。 さらに計算された統計データの有意についての検定方法を学ぶ。 参考文献を第一回目の授業にてリストを配る予定である。</p>				
授業の準備について	<p>データ利用の知識が必要となる。事前に復習しておくこと。 また積み重ねとなるので授業を欠席しないこと。</p>				
授業内容					
1	イントロダクション				
2	平均と分散の予測する 1 (信頼区間)				
3	平均と分散の予測する 2 (実験的測定)				
4	平均と分散の理論値 (一つのさいころ)				
5	平均と分散の理論値 (二つのさいころ)				
6	ビギナーズラック実験				
7	ビギナーズラック理論				
8	超能力実験 1 (帰無仮説 1 -P 値・片側検定-)				
9	超能力実験 2 (帰無仮説 2 -両側検定-)				
10	まとめ 1				
11	他との違いを見る 1 (χ^2 乗値について)				
12	他との違いを見る 2 (χ^2 乗検定について)				
13	分散分析について 1				
14	分散分析について 2				
15	まとめ 2				
教科書	特に使用しない				
評価方法	授業での貢献度 30% 課題 70%				
特記事項	データ利用 II を履修していることが望ましい。履修していない場合は自分で勉強しておくこと。				

科目名	社会統計法		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>統計処理法を踏まえて社会調査へ応用・実践する。 社会調査の実践について学ぶ。特に仮説検定を利用する。結果から何がわかったかグループディスカッションすることで理解を深める。 また各グループで分析するデータを決め発表してもらおう。 必要に応じてデータ利用I、IIの復習も行う。</p>				
授業の準備について	データ利用と統計処理法の知識が必要となる。事前に復習しておくこと。				
授業内容					
1	イントロダクション				
2	統計学の復習				
3	回帰分析の復習				
4	データ分析の考え方、問題を見つける				
5	データから仮説を立てる				
6	調査内容の企画を立てる				
7	調査内容の発表				
8	調査票の作成（予備調査と調査票）				
9	調査票の回収と再検討				
10	データの整理				
11	データ解析（仮説検定）				
12	調査報告書作成				
13	調査結果の発表 1				
14	調査結果の発表 2				
15	まとめ				
教科書	特に使用しない				
評価方法	授業での貢献度 30% 課題 70%				
特記事項					

科目名	社会調査法		担当者	武井 順介	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・4
授業の目標	<p>社会学の調査法は量的調査法と質的調査法に大別できます。量的調査法は統計的手法を用いて、社会の傾向を把握するために適しているとされています。一方、質的調査法は社会の中にいる人々の「現実」を捉えるのに適しているとされています。どちらの調査法も調査の目的に応じて使い分ける必要があります。そこで前期ではこれらの調査法の意義や用途、歴史、特徴などから社会調査の基礎的な知識の習得を目指します。後期は、前期に習得した知識を用い、実際にミニ調査を行ないます。この調査は量的調査法にもとづいたもので、①問題意識の設定、②問題意識にもとづく調査の企画、③仮説設定、④調査票作成、⑤調査実施、⑥調査結果の分析、などを講義とグループ作業を通して行ないます。これらを社会調査の一連の流れとして習得することも重要ですが、社会現象に対して興味や関心を持ち、そこから問題意識を立ち上げ、社会調査につなげることも重要と考えるため、積極的・自主的な授業参加を期待しています。</p>				
授業の準備について	<p>前期は授業準備として書籍に目を通しておく必要はありませんが、社会で起こる様々な現象にアンテナをはってください。後期は1回1回の授業で課題を出しますので、欠席のないよう授業に参加してください。</p>				
授業内容					
1	ガイダンス・イントロダクション		1	ガイダンス・イントロダクション	
2	社会調査とは何か		2	調査テーマと調査方法の検討	
3	社会調査の意義と用途		3	調査手順の検討	
4	社会調査の歴史と系譜①量的調査法		4	調査対象の把握	
5	社会調査の歴史と系譜②質的調査法		5	仮説の構築方法	
6	社会調査の方法①量的調査の特徴		6	調査方法の解説	
7	社会調査の方法②質的調査の特徴		7	調査実施方法の検討	
8	さまざまな調査手法		8	質問文の作成方法と注意点	
9	社会調査の実例とプロセス①量的調査法		9	質問文作成と調査票の設計	
10	社会調査の実例とプロセス②質的調査法		10	調査票完成と調査実施	
11	仮説検証的アプローチ		11	調査データのチェック	
12	事実発見的アプローチ		12	調査データの入力と入力チェック	
13	社会調査と理論		13	集計と分析作業	
14	社会調査の倫理		14	報告準備	
15	まとめ		15	報告発表・レポート提出	
教科書	教科書はありません。毎回の授業時にレジユメを配布します。				
評価方法	前期：出席 50%、試験 50%あるいはレポート 50% 後期：出席 50%、報告・レポート 50%				
特記事項	出席回数、授業の進め方などの諸注意を前期1回目の授業時に行ないますので、必ず出席してください。				

科目名	ロソリの入口		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>論理的に考えることに慣れ親しむ。 まず論理の基礎になる集合を学びなおし、その後論理について行ないます。「命題を解く」ことをメインに行ないます。また論理において未解決なパラドックスといわれている内容にも触れていきます。</p>				
授業の準備について	積み重ねですので休むと分からなくなります				
授業内容					
1	集合とは？・身近な集合について				
2	有限集合について				
3	集合の演算について				
4	まとめ1				
5	論理について I —命題と真理値—				
6	論理について II —論理記号—				
7	論理について III —論理式—				
8	論理について IV —論理式を作る（その1）—				
9	論理について V —論理式を作る（その2）—				
10	論理について VI —論理式を解く（その1）—				
11	論理について VII —論理式を解く（その2）—				
12	論理について VIII —論理式の応用—				
13	パラドックスについて				
14	パラドックスの色々な解決法				
15	まとめ2				
教科書	特に使用しない				
評価方法	試験100%				
特記事項					

科目名	アルゴリズム		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>色々なアルゴリズムについて学びます。まず身近な事柄をアルゴリズム化しアルゴリズムに慣れることを行ないます。メインは意思決定のアルゴリズムでもあるゲーム理論の入門的な事柄を講義します。そしてゲーム理論のミクロ経済学への応用についても触れます。ロンドリの入り口に引き続き論理的に考えることが目的です。ゲーム理論は経済学科などで行なうことの多い科目です。経済に興味のある方は受講してみてください。</p>				
授業の準備について	積み重ねです。しっかり復習して下さい。				
授業内容					
1	アルゴリズムとは？				
2	身近な事柄でアルゴリズムを考えよう				
3	アルゴリズムの構造って？				
4	流れ図って何？流れ図の書き方は？				
5	アルゴリズムを読み取ろう（その1）				
6	ゲーム理論とは				
7	コンビニの戦略（支配戦略・最適反応）				
8	コンビニの戦略（ナッシュ均衡）				
9	コンビニの戦略（展開形ゲーム）				
10	コンビニの戦略（バックワードインダクション）				
11	ゲーム理論の応用（オークション）				
12	ゲーム理論の応用（数量競争）				
13	ゲーム理論の応用（価格競争）				
14	ゲーム理論の応用（マッチング）				
15	まとめ				
教科書	特に使用しない				
評価方法	筆記試験100%				
特記事項	授業最初に参考書など紹介します。				

科目名	HP 作成演習		担当者	エリック・ボグナール	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	この授業ではウェブサイトの仕組みとウェブページの作り方を学びます。また、多数のウェブデザイナーが愛用しているアップルコンピュータの使い方も学びます。HTML言語を初歩から勉強し、携帯サイトで見られるコンテンツを書きます。同時に写真の使い方、グラフィックスの作り方を学びます。最終的に学生一人一人のユニークな携帯サイトを仕上げ、公開します。				
授業の準備について	授業で携帯ページのHTMLコードなどを書きますが、ページのテーマを考える、文書を書く、写真を撮るのは授業の前にやって下さい。				
授業内容					
1	アップルコンピュータの基本操作				
2	WEB サイト vs 携帯サイト ・ 携帯サイトの基本				
3	HTML の組み合わせ ・ 宣言とコンテンツ				
4	文字 ・ 見出し ・ 背景 ・ リンク				
5	プロジェクトのコンテンツの作成（1）				
6	段落 ・ ページのレイアウト				
7	プロジェクトのコンテンツの作成（2）				
8	グラフィックスの作り方 ・ 絵文字				
9	プロジェクトのコンテンツの作成（3）				
10	画像の表示 ・ 写真の使い方				
11	プロジェクトのコンテンツの作成（4）				
12	フォームの作り方				
13	プロジェクトのコンテンツの作成（5）				
14	プロジェクトのコンテンツの発表				
15	携帯サイトを公開する				
教科書	プリントを配布します。				
評価方法	授業の出席日数と出来上がったサイトの総合評価します。				
特記事項	6回目の授業まで、基本を学ぶので、出来るだけ、欠席をさけてください。				

科目名	会計学 会計学演習		担当者	宇都宮 仁	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	選	期間・単位数	会計学／後期・2 会計学演習／後期・1
授業の目標	<p>会計学，特に簿記の知識は就職，社会に出てからなど様々な場面で役に立つ。 この授業では，会計学のみならず簿記にいたるまで丁寧に授業で取り扱う。また「会計学」ではその理論を，「会計学演習」では演習問題を行う。両方とも履修することで日商簿記3級水準の基礎的な知識を習得できるようになる。</p>				
授業の準備について	<p>会計学を受講するにあたっての予備知識は必要ありませんが，わからないところなどは，毎回の講義で配布する問題などを使い，きちんと復習するようにしてください。</p>				
授業内容					
1	イントロダクション				
2	会計学のための簿記入門				
3	決算書の作成方法				
4	仕訳－商品売買				
5	仕訳－現金・当座預金				
6	仕訳－小口現金				
7	仕訳－手形				
8	仕訳－その他の取引(I)				
9	仕訳－その他の取引(II)				
10	試算表の作成(I)				
11	試算表の作成(II)				
12	決算手続き(I)				
13	決算手続き(II)				
14	決算手続き(III)				
15	まとめ				
教科書	特に指定しない				
評価方法	授業内の演習問題 40%， 期末試験 60%				
特記事項	会計学と会計学演習は両方履修すること				

科目名	簿記		担当者	岡田 昇	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	前期・1
授業の目標	<p>日商簿記検定3級の内容で、試算表作成ができるまでを学ぶ。3級の知識がある学生も、知識を定着させられるように講義を進める。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	簿記の基礎				
2	日常の手続き (1)				
3	日常の手続き (2)				
4	商品売買 (1)				
5	商品売買 (2)				
6	現金				
7	当座預金				
8	小口現金				
9	手形 (1)				
10	手形 (2)				
11	その他の期中取引 (1)				
12	その他の期中取引 (2)				
13	その他の期中取引 (3)				
14	試算表の作成				
15	期末試験				
教科書	指定しない				
評価方法	出席 40%、期末試験 60%				
特記事項	特になし				

科目名	ビジネス演習			担当者	小柳 恵子	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選		期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>後期「デジタル製本」においてフリーペーパー作成を行います。前期はそのための準備段階と位置付けられます。</p> <p>前期においてはフリーペーパーの企画を中心に、各種雑誌媒体の研究、出版業界の動向も学びます。同時にフリーペーパー制作に必要な企画・交渉・事務処理、取材、ライティングなど編集スキルを実習することで、ビジネススキルの養成も目指します。</p> <p>講義ののちに課題を課し、学生各位の積極的取り組みによる演習・実習を想定しています。</p>					
授業の準備について	初回授業出席に備え雑誌を購読し、または定期的に購読している雑誌を各自1冊以上持参すること。					
授業内容						
1	雑誌の特性、種類、各誌のゾーニング					
2	雑誌解体－雑誌における広告、広告タイアップの意味					
3	編集という仕事					
4	企画の立て方－企画案作成					
5	コンテカ－絵コンテ作成					
6	プレゼンテーションカ					
7	交渉力1 メールによる依頼					
8	交渉力2 電話による交渉－ロールプレイング					
9	取材、インタビュー。インタビュー実習					
10	ライティング1－リライト、要約					
11	ライティング2－書評、映画評、音楽コラム					
12	ライティング3－エッセイ、小論文					
13	取材実習－カリタス再発見・・・学内施設や人を取材					
14	編集－13回の取材結果を編集してデータを作成					
15	編集会議－後期「デジタル製本」で制作する小冊子の企画					
教科書	とくにありません。いろいろなタイプの雑誌を読むようにしてください。					
評価方法	課題・制作物・・・70% 学習意欲・授業への積極的参加・・・30%					
特記事項	<p>前期「ビジネス演習」、後期「デジタル製本」を通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修は認められません。</p> <p>毎回、演習を重ねることによって、後期にフリーペーパーを制作することができるようになるので、極力欠席しないようにしてください。</p>					

科目名	デジタル製本			担当者	小柳 恵子
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>前期「ビジネス演習」において演習してきたことを生かし、フリーペーパー作成を行います。フリーペーパー制作のため、学外の個人や機関に取材依頼・交渉、取材を行います。その際、取材先に礼を尽くしながら取材活動に自発的に取り組み、取材の目的を達成するように努めます。写真セレクト、コンテ作成、ライティング、レイアウト、校正など編集の実際を行います。その際、締め切りを順守しつつ、グループによる活動ではチームワークを学びます。デザインやライティングの精度を高め、フリーペーパーのより高い完成度を追求します。</p>				
授業の準備について	フリーペーパーを中心に各種雑誌を閲覧。フリーペーパーで取り上げたいテーマについて調べる。				
授業内容					
1	テーマ検索・下調べ。フリーペーパープレゼン、テーマ決定				
2	編集会議／編集長、副編集長、各担当決定。企画書、絵コンテ作成				
3	取材下調べ。取材依頼、交渉				
4	取材下調べ。取材依頼、交渉				
5	取材、撮影				
6	取材、撮影				
7	ラフコンテ制作、取材メモ整理、リライト				
8	キャッチコピー・リード・テキスト打ち込み				
9	テキスト完成、文字校正				
10	画像セレクト、画像レイアウトデザイン				
11	レイアウトデザイン完成				
12	校正。取材先に校正確認依頼				
13	訂正箇所修正、取材先に校正確認				
14	修正、データ完成				
15	印刷、製本。合評会				
教科書	とくにありません。				
評価方法	課題・制作物・・・70% 学習意欲・授業への積極的参加・・・30%				
特記事項	<p>前期「ビジネス演習」、後期「デジタル製本」を通年で履修すること。前期を履修していない学生の後期のみ履修は認められません。</p> <p>交渉や取材で学外の方と接する機会が多いので、カリタスの学生であることの矜持を持って行動することが求められます。</p> <p>クラスで1冊を制作するため、欠席すると他の人の進捗も妨げることになります。極力欠席しないようにしてください。</p>				

科目名	オフィス論			担当者	北川 宣子、高橋 晃子	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必		期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>高度情報化、地球環境の悪化、グローバル化、少子高齢化など多様化するビジネス現場におけるオフィスワークを学ぶ。実力社会の中で働くことの意義、オフィスワーカーとしての資質を学び、自分の資質および役割の探求の手助けとする。また、社会人としての心構えやマナー、人間関係の重要性などを、秘書の立場と比較しながら、働く女性としてのセンスを養っていく。</p> <p>授業では、ビジネス用語などを学ぶ講義形態に加え、適宜ロールプレイングやグループワークによる共同作業を行いながら、コミュニケーション能力も養う。またビデオを使用しながら具体的な事例を考えて知識を深めていく。</p>					
授業の準備について	事前に必ず教科書に目を通すなど予習をしておくこと。また出された課題はその都度、仕上げるよう心がける。					
授業内容						
1	オフィスワークの概念					
2	オフィスワークの基礎知識					
3	さまざまなオフィスの形態と組織					
4	オフィスワーカーの資質と能力					
5	人間関係とコミュニケーション					
6	ビジネスと情報					
7	接遇実務の基礎知識					
8	秘書検定試験の対策					
9	オフィスワーカーのケース研究					
10	自己啓発と能力開発					
11	キャリア形成					
12	ビジネス環境の変化					
13	未来のオフィスとオフィスワーク					
14	用語の復習					
15	授業のまとめ					
教科書	吉田寛治 編著 『ビジネスワークの基礎』 嵯峨野書院 1998					
評価方法	期末テスト 60%、宿題 20%、グループワークの発表、授業への参加度 20%					
特記事項	資格取得に必要な科目でもあるので、遅刻・欠席は特に厳しく扱います。また授業に対する姿勢も重視します。					

科目名	秘書実務		担当者	高橋 晃子	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>秘書の業務は、大きく「対人関係業務」「情報処理業務」「オフィス・マネジメント」の3つの分野に分けることができるが、この授業では主に「対人関係業務」と「オフィス・マネジメント」の分野に焦点を当てる。「対人関係業務」では、ビジネスマナーの基本、言葉遣い、来客対応や電話対応のマナーなど、「オフィス・マネジメント」では、会議運営、スケジュール管理、出張業務、慶弔の常識などを、実習を通して、具体的かつ実践的に学んでいく。そして将来、社会に出て役に立つようなビジネスの基礎知識を身につけることを目的とする。</p>				
授業の準備について	<p>授業の内容と関わってくる「敬語」「ビジネスマナー」「冠婚葬祭」「秘書の仕事」など、いわゆるビジネス関係の本を読んでおくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	秘書実務への導入	1	秘書検定試験対策		
2	ビジネスマナーと第一印象	2	慶弔業務（1）		
3	言葉遣い（1）	3	慶弔業務（2）		
4	言葉遣い（2）	4	スケジュール管理（1）		
5	秘書検定試験対策	5	スケジュール管理（2）		
6	来客対応のマナー（1）	6	出張業務（1）		
7	来客対応のマナー（2）	7	出張業務（2）		
8	来客対応のマナー（3）	8	秘書検定試験対策		
9	秘書検定試験対策	9	会計業務（1）		
10	電話対応のマナー（1）	10	会計業務（2）		
11	電話対応のマナー（2）	11	会議と会合の実務		
12	その他のコミュニケーション	12	インバケット（1）		
13	レポート発表	13	インバケット（2）		
14	前期の纏め（1）	14	後期の纏め（1）		
15	前期の纏め（2）	15	後期の纏め（2）		
教科書	森本敦司他著『オフィスのマナーと常識―新 秘書・ビジネス実務入門―』燃焼社（2000）				
評価方法	前後期とも：授業ごとの課題 30%、レポート 20%、纏めの試験 50%				
特記事項	遅刻や欠席をしないで、積極的に授業に参加できる学生を望みます。				

科目名	情報文化 I		担当者	牛山 佳菜代	
コース・学年	社会文化・1－2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目的	<p>古代の人間は、ジェスチャーや絵によって他者との情報交換を図っていましたが、「ことば」「文字」「新聞」「映画」「テレビ」といった様々なメディアを発明したことで、コミュニケーションの範囲を拡大し、複雑な内容を伝えることができるようになりました。</p> <p>この授業では、人と人を媒介するメディアの誕生及び発達過程に焦点を当てます。各時代において新しいメディア・コミュニケーションがどのように登場したのか、また、人々の生活や文化にどのような影響を与えたのか、実際の資料を見ながら考えていきます。</p> <p>講義に加えて、古代文字（楔形文字、ヒエログリフなど）の筆記実習、動画機材（ソーマトロープ、フェナキスティスコープなど）の制作、初期映画（リュミエール兄弟「列車の到着」、メリエス「月世界旅行」、チャップリン「スケート」など）の視聴、校外見学（新聞博物館）などを行い、情報文化の発達に対する理解を深めます。</p>				
授業の準備について	普段からメディアの動向に注意を払っておくこと。				
授業内容					
1	オリエンテーション：講義方針・各回の内容、自己紹介など				
2	身体操作による表現と記録の方法：ジェスチャー、火、絵画など				
3	話し言葉の時代：ことばの誕生にかかる理論、ことばが文化に与えた影響				
4	古代文字の誕生（1）：楔形文字				
5	古代文字の誕生（2）：ヒエログリフ				
6	古代文字の誕生（3）：漢字、アルファベットなど				
7	文字の複製技術：木版印刷、陶版印刷、活版印刷				
8	情報流通の拡大（1）：コーヒーハウスから新聞へ				
9	情報流通の拡大（2）：西欧における新聞の発達過程				
10	情報流通の拡大（3）：日本における新聞の誕生				
11	映画の誕生（1）：動く映像の開発過程				
12	映画の誕生（2）：映画館の誕生				
13	映画言語の発達（1）：映画ジャンルの形成、初期映画の表現手法				
14	映画言語の発達（2）：トーキー映画、カラー映画の表現手法				
15	前期のまとめ				
教科書	関連プリントを配布。				
評価方法	試験60%、ミニレポート（毎回の感想・見学レポート等）40%				
特記事項	・校外見学（新聞博物館）を実施予定です。（前期中の土曜日に実施。交通費は各自負担）				

科目名	情報文化Ⅱ		担当者	牛山 佳菜代	
コース・学年	社会文化・1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目的	<p>今日、私達は、テレビ・新聞・インターネットなどのメディアに囲まれて日々暮しており、メディアを通じて世界を知ると言っても過言ではありません。</p> <p>そこで、この講義では、現代のメディア社会に注目します。テレビ、新聞、雑誌・書籍、最近急成長を遂げたインターネット、ケータイ、また私達の最も身近にある地域メディア（ケーブルテレビ、フリーペーパーなど）などに関して、産業構造や表現の特徴を検討します。</p> <p>合わせて、実際のテレビドラマ・ニュース、新聞報道などを実際に見て特徴を分析する内容分析演習、受講生同士でインタビューを行い記事としてまとめる雑誌記事作成実習、受講者による個人発表（メディアの比較分析）、校外見学などを行うことで、メディアリテラシーの総合的向上を目指します。</p>				
授業の準備について	情報文化Ⅰの内容をしっかりと復習し、内容を理解しておくこと。				
授業内容					
1	オリエンテーション：講義方針・各回の内容、自己紹介など				
2	テレビ（１）：テレビの現状と問題点				
3	テレビ（２）：ドラマの分析				
4	テレビ（３）：ニュースの分析				
5	新聞（１）：新聞の種類・現状・問題点				
6	新聞（２）：新聞記事の比較分析				
7	雑誌・書籍（１）：雑誌・書籍の種類・現状・問題点				
8	雑誌・書籍（２）：雑誌記事の比較分析				
9	雑誌・書籍（３）：インタビュー記事の作成実習				
10	ウェブとケータイ（１）：インターネットの発達				
11	ウェブとケータイ（２）：ポケベルからケータイへの発達				
12	ウェブとケータイ（３）：ケータイの“テトラッド”を考える				
13	地域とメディア（１）：ケーブルテレビ、コミュニティFM				
14	地域とメディア（２）：フリーペーパー、地域SNS				
15	後期のまとめ				
教科書	関連プリントを配布。				
評価方法	試験４０％、個人発表３０％、ミニレポート（毎回の感想・見学レポート等）３０％				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外見学（NHK スタジオパーク）を実施予定です。（後期中の土曜日に実施。交通費は各自負担） ・ ９～１４回においては、受講者による個人発表も行います。 				

科目名	インターネット概論		担当者	山澤 浩司	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	インターネットの歴史を初めに仕組みやデジタル信号で使われる2進法について講義します。また暗号の仕組みについても講義します。				
授業の準備について	予習は必要ありません。しっかり勉強して下さい。				
授業内容					
1	イントロダクション				
2	インターネットの歴史1				
3	インターネットの歴史2				
4	インターネットの歴史3				
5	携帯電話の歴史と仕組み1				
6	携帯電話の歴史と仕組み2				
7	携帯電話の歴史と仕組み3				
8	電波について1				
9	電波について2				
10	デジタル信号について1				
11	デジタル信号について2				
12	デジタル信号について3				
13	暗号の仕組み1				
14	暗号の仕組み2				
15	暗号の仕組み3				
教科書	特に使用しない				
評価方法	レポート70%以上、授業への貢献度30%以下				
特記事項					

科目名	社会心理学		担当者	勝谷 紀子	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>わたしたちは、初めて会った人にも「明るそうな人」などと何かしらの印象をいただくことができる。人を好きになったり、助けたりすることもある。グループで話し合いをして意見がうまくまとまる場合もあれば、そうでない場合もある。さらに、ある文化に暮らす人と別の文化に暮らす人では、考え方や行動が異なる場合があるかもしれない。</p> <p>社会心理学は、このような他者に関する情報の処理、他者との関わり、集団における対人行動、文化と人との関わりなどを扱う学問である。授業では、社会心理学の基本的な知識を身につけることを目的とする。</p>				
授業の準備について	事前の予習は特に必要ありません。社会心理学を初めて学ぶ人向けの内容にする予定です。				
授業内容					
1	オリエンテーション：社会心理学とは				
2	対人認知				
3	ステレオタイプ				
4	態度				
5	自己				
6	コミュニケーション				
7	対人魅力・親密な関係				
8	援助行動				
9	攻撃行動				
10	集団の心理				
11	精神的健康				
12	メディアと対人行動				
13	文化と対人行動				
14	これまでのおさらい				
15	期末テスト				
教科書					
評価方法	出席（20%）、小課題（30%）、期末テスト（50%）で総合的に評価する。				
特記事項	履修を希望する学生は、初回のオリエンテーションには必ず出席してください。授業内容や成績評価についてくわしく説明します。				

科目名	書道（硬筆）		担当者	鈴木 和枝	
コース・学年	社会文化・1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	① 硬筆による書写書道の基本的・基礎的な事柄を学ぶ。 ② 書写技能の定着及び向上を図る。 ③ 実用書式を身に付ける。				
授業の準備について	用具については、最初の授業で説明いたします。				
授業内容					
1	基本点画の書き方Ⅰ				
2	基本点画の書き方Ⅱ				
3	字形の整え方Ⅰ（漢字楷書）				
4	字形の整え方Ⅱ（漢字楷書と片仮名）				
5	字形の整え方Ⅲ（平仮名）				
6	字形の整え方Ⅳ（平仮名）				
7	漢字仮名交じり文の書き方（縦書き）				
8	漢字仮名交じり文の書き方（横書き）				
9	履歴書の書き方Ⅰ				
10	履歴書の書き方Ⅱ				
11	履歴書の書き方Ⅲ				
12	履歴書に添える送り状の書き方				
13	やさしい行書と行書に調和する平仮名の書き方				
14	手紙の書き方				
15	和綴じによる作品の集大成				
教科書	「字形と筆順」 光村図書				
評価方法	提出物（毎時の作品・学期末の作品の集大成）50%・授業への参加度 50%				
特記事項	特になし				

科目名	シスアド検定対策		担当者	岡田 昇	
コース・学年	社会文化・2年	必・選	選	期間・単位数	後期・1
授業の目標	<p>初級システムアドミニストレータ試験に代わり、2009年度春期試験より経済産業省が実施するITを必要とする社会・団体・産業界へのパスポートとなる国家資格であるITパスポート試験対策の科目です。この試験は広い意味でコンピュータを活用する人向けの、初級レベルの試験に位置付けられています。</p> <p>ここではその出題範囲であるストラテジ系と呼ばれる法務や経営戦略の基礎、マネジメント系と呼ばれる開発技術やマネジメントの基礎、テクノロジー系と呼ばれるコンピュータ関連の基礎を学びます。講義ではストラテジ系とマネジメント系について学びます。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	イントロダクション				
2	企業と法務（企業活動）				
3	企業と法務（法務）				
4	経営戦略（経営戦略マネジメント）				
5	経営戦略（技術戦略マネジメント）				
6	経営戦略（ビジネスインダストリ）				
7	システム戦略（システム戦略）				
8	システム戦略（システム企画）				
9	中間試験				
10	システム開発技術（システム開発技術）				
11	システム開発技術（ソフトウェア開発管理技術）				
12	プロジェクトマネジメント				
13	サービスマネジメント（サービスマネジメント）				
14	サービスマネジメント（システム監査）				
15	期末試験				
教科書	指定しない				
評価方法	出席 20%、中間テスト 40%、期末テスト 40%				
特記事項	特になし				

科目名	社会学 I		担当者	滝本 順子	
コース・学年	社会文化・1－2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>「社会」について考えるのが社会学です。(たとえば、社会とは何か、社会で何が起きているのか、社会で何が問題になっているのか、社会はどのように変化しているのか、といった問いを考えることです。)本講義では、今日の日本がかかえる社会問題について考えます。さまざまな問題について考えることで、社会とはどういうものなのかということを想像し、社会の中でいかに暮らしていくのかということを考える想像力を身につけることを目指します。</p>				
授業の準備について	配布されたプリント、参考資料、ニュース、新聞などで予習、復習をしてください。				
授業内容					
1	社会学とは何か				
2	格差 (1) 格差社会の実態				
3	格差 (2) 戦後日本「一億総中流社会」の構造				
4	格差 (3) 格差社会日本①格差はなぜ拡大しているのか?				
5	格差 (4) 格差社会日本②格差社会への対応策				
6	ジェンダー(1)ジェンダーとは				
7	ジェンダー(2)男女共同参画社会				
8	ジェンダー(3)性にかかわる諸問題				
9	ジェンダー(4)イスラーム社会の女性				
10	家族(1)再生産の場としての家族				
11	家族(2)結婚				
12	家族(3)少子化				
13	福祉(1)高齢化				
14	福祉(2)社会保障				
15	前期のまとめ				
教科書	教科書は使用しません。				
評価方法	毎回の授業のコメント・感想：40%、期末試験：60%				
特記事項	授業ではプリントを配布します。参考資料は講義の中で適宜紹介します。				

科目名	社会学 II		担当者	滝本 順子	
コース・学年	社会文化・1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>「社会」について考えるのが社会学です。(たとえば、社会とは何か、社会で何が起きているのか、社会で何が問題になっているのか、社会はどのように変化しているのか、といった問いを考えることです。)本講義では、ダイナミックに変化している現代社会の現状について学びます。社会で起きているさまざまな変化について考えることで、変化している社会の中でいかに暮らしていくのかということを考える想像力を身につけることを目指します。</p>				
授業の準備について	配布されたプリント、参考資料、ニュース、新聞などで予習、復習をしてください。				
授業内容					
1	現代社会論とは何か				
2	グローバル化(1) 国家とグローバル化				
3	グローバル化(2) 経済のグローバル化				
4	グローバル化(3) 国境を超える人の移動①				
5	グローバル化(4) 国境を超える人の移動②				
6	エスニシティ(1) エスニック紛争				
7	エスニシティ(2) 難民				
8	エスニシティ(3) 日本社会の外国人住民				
9	環境問題				
10	NGOとNPO(1) NGO/NPOとは				
11	NGOとNPO(2) NGO/NPOの問題点・課題				
12	メディア(1) マス・メディア				
13	メディア(2) メディアの変容①インターネット				
14	メディア(3) メディアの変容②ケータイ				
15	後期のまとめ				
教科書	教科書は使用しません。				
評価方法	毎回の授業のコメント・感想：40%、期末試験：60%				
特記事項	授業ではプリントを配布します。参考資料は講義の中で適宜紹介します。				